



大山 高見 雅博

発行所 枚方・交野地区保護司会
ホームページ
www.hirakata-shakyo.net/hogoshikai/
発行者 山 本 卓 也

犯罪や非行のない明るい年に

枚方・交野地区保護司会
会長 山本 卓也



明けましておめでとうござい
ます。

旧年中は、更生保護事業
にご理解とご協力を賜りま
して誠に有難うございまし
た。本年も何卒宜しくお願
い致します。

昨年の夏、西日本では記
録的な猛暑、そして台風に
よるかつて経験したこと
のない暴風や豪雨、大阪北部
や北海道では大地震による
甚大な被害を受けました。

枚方市でも、その地震の
影響で唯一の文化の殿堂で
ある市民会館も大きな損傷
を受け、市民の娯楽の場を
一瞬のうちに失いました。

私達保護司会も全国的に
行れる「社会を明るくする
運動」を計画しておりまし

たが、やむなく中止した次
第であります。

昨年八月三〇日「社会を
明るくする運動」の一環で
あります「更生保護大会」が
交野市立ゆうゆうセンター
で、枚方市・交野市の両市
長をはじめ大阪保護観察所
長、両市議会議長等の関係
者、そして当該保護区の更
生保護団体や市民の参加の
もと盛大に行われ成功を取
めることが出来ました。

これも偏に関係各位のご
支援の賜物と心から厚く御
礼申し上げます。昨年も機
会ある毎に申し上げてきま
したが、再犯を防止する為
には罪を犯した人達が再び
過ちを繰返さない様にする
事が重要であります。

再犯者の大半は仕事に就
いていない人で一定の居場
所(住居)を持たない人でも
あります。その様な事から
「枚方・交野地区協力雇用
主会」では、一般の多くの事

業主の方々に雇用主となっ
て頂きまして、就業の場を
提供して頂いております。

また、枚方・交野両市の
福祉行政では「生活困窮者
自立支援事業」による就労
や居住等の支援制度があり、
今後その必要性も高まって
くるものと思われま

平成二九年度の防犯白書
によりますと犯罪や非行の
件数は減少傾向にあると言
われますが、再犯率は上昇
を続けているとの事です。
今年皇位の継承が行わ
れ、新しい年号を迎える事
になります。

今年も犯罪や非行の無い、
明るい年でありますよう心
から願う次第であります。
平和な年でありますよう
願いつつ、皆様方のご健勝
とご多幸をお祈り申し上げ
ます。



更生保護七〇周年

大阪保護観察所

所長 宮田 祐良



本誌がお手元に届く頃には、ご家族とともに健やかに新しい年をお迎えのことと存じます。

枚方・交野地区の保護司の皆様方には、平素から更生保護の諸活動に御尽力を賜り厚く御礼申し上げます。

平成の時代も残りわずかとなりましたが、更生保護にとっては真価が問われた激動の時代でした。

しかしながら関係者のたゆまぬ地道な努力の積み重ねは、再犯防止の重要性が強調される近年、大きな期待として認められるに至りました。

さて、今年は更生保護制度が施行されて七〇周年という記念の年に当たります。

過去を振り返り未来を展望するこの機会に、更生保護の大切さを発信していきたいと思えます。

幸い耳を傾けてくださる人も増えてきました。更生保護の活動は再犯防止の一点に収斂されるものではありません。

民間有志の熱意によって始まった更生保護は、個人一人ひとりの幸せと同時に住みよい地域社会を願う活動です。

個人の自己決定と自己責任の名の下で、しかも短期間で成果が求められるあまり、ともすれば人と人との連携が軽んじられかねないという厳しい現代においてこそ、更生保護が希求してきた共助・共生の大切さを再認識し、社会に問うていくことが必要であると考え

ています。

「正直の頭こぶに神宿る」と申します。これまでもこれからも歩みは遅くとも着実に活動の輪を広げていきたいと願い、年頭の御挨拶とさせていただきます。

枚方・交野地区の皆様方の御活躍と御健勝と、そうして実り多い一年となりますことをお祈り申し上げます。

新年の御挨拶

大阪保護観察所

主任官 宮崎 雄輔



新年明けましておめでとうございます。

枚方・交野地区保護司会を始め、更生保護関係団体の皆様方には、健やかに新

年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

皆様方におかれましては、平素から保護観察や生活環境調整の実施、犯罪予防活動等に御尽力を賜りありがとうございます。

皆様方の御尽力により、多くの保護観察を無事に終えることができました。厚く御礼申し上げます。

昨年は、地震や台風といった自然災害の被害が大きく、自然の脅威を認識させられる一年でした。また、世間を騒がすような凶悪事件が多く発生した年でもありました。

今般の凶悪事件が生まれ、スマートフォンスマートフォンの普及やSNSS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)の発達等によって、人と人との顔を合せて生で会話をを行う機会が減ってしまったことにあると思えます。

そのため、人と人、地域社会と人との繋がりのために御活動いただいている更生保護関係団体の皆様方に心から敬意と感謝の意を表する次第です。

私は、今後も、処遇を行う際に担当する対象者との繋がりをより一層大切にし、少しでも対象者に寄り添えるように尽力していきたいと存じます。

本年は平成最後の年であって、これから新しい元号に変わり、大きな転機を迎えることとなりますが、更生保護関係団体の益々の御発展と皆様方の御健勝及び御多幸を心から祈念いたしております。

また、我々も、皆様のご活躍に少しでもお力添えできるとともに、引き続き精進して参りますので、今後とも御支援・御協力の程、よろしくお願い申し上げます。

新年を迎えて

枚方・交野地区保護司会

副会長 山口 信博



新年明けましておめでと
うございます。

保護司最後のお正月を迎
えて一言ご挨拶致します。

保護司になって十五年。
当初より保護司会の広報部
に所属し広報活動（社明運
動推進、広報誌の発行、枚方
祭り参加、作文コンテスト
選定等）に携わって来まし
た。

皆様の協力を得て犯罪予
防に貢献出来たと自負して
います。特に他地区保護司
会の追従を許さない標語パ
ネル協賛依頼数の多さは犯
罪予防意識の拡充にも繫

がっています。（近年枚数が
減って来ているのが少し心
配ですが。）十五年前と比較
して対象者数は半減してい
ます。喜ばしい事です。

保護司会として『更生保
護活動』だけではなくもう
一方の『犯罪予防活動』が
実って来ているとも考えら
れます。

しかし近年、薬物事犯が
増加しつつある事が心配で
す。

そこで保護司会として桜
花倶楽部と共に三年前より
小学校高学年の薬物乱用防
止教室に着手致しました。

薬物は一回使うと脳が覚
えてしまうから怖いのです。
一回ぐらいいと思う安
易な気持ち怖いのです。

薬物は本人だけでなく家
族、友達も不幸にしてしま
います。

必ず誘いがあると考え、
きっぱりと断る勇気を教え
ます。

又、未成年者の煙草、酒は
薬物への入り口の為、小学
生には煙草、酒も駄目な事
も厳しく教えます。

薬物の怖さを小学校、中
学校、高校と三回は教える
必要があると思います。

この様な活動も含めて今
後の保護司会活動は犯罪予
防の比重が高くなって来る
かも知れません。

皆様のご活躍を祈念して
本年も宜しくお願いいたし
ます。



枚方・交野地区保護司会

副会長 谷 喜吉



新年明けましておめでと
うございます。

皆様方には御家族共々、

新しい年の息吹の到来を寿
がれた事とお慶び申し上げ
ます。

幾年を経ても清々しい時
の流れを穏やかに迎えられ
る事は何物にも優るものと
思います。

昨年は自然現象の変異に
困惑を余儀なくされました。
しかしながら、社会の安寧
を保とうとする思いや力は、
それに阻害されるものでは
ありません。

社会の基盤となる人間一
人一人が無事である事が大
いなる命題です。

社会の平安を維持する為
の一助と確信する保護司活
動の重要性はその一端であ
ります。

犯罪発生認知件数は全
般的に減少傾向にあります
が、薬物乱用の拡散、高齢者
犯罪の増加等、重苦しい問
題は明々と存在しています。

頼れるものを模索してい
る人達を、具体的な行動で

しっかりと支えなくてはな
りません。

一方で、我々保護司自身
の安定的確保という喫緊の
問題もあります。

今や更生保護と厚生福利
はきり離せず、いずれ少年
法の改正問題も生ずると思
います。

多岐に渡る諸状の中で、
我々自身が自己研鑽を重ね、
更生保護団体や関係各機関
と綿密に協力し合い、一人

一人の保護司活動が社会の
一隅を照らし、地の塩とな
り、安全で明るい社会を築
く礎とならなければならな
いと思います。

最後に、私がある紙面で
知った、江戸時代後期の儒
者、佐藤一斎の文言の一節
を記して新年の御挨拶とさ
せて頂きます。

「二燈を提げて暗夜を行く

暗夜を憂ふるなかれ

只一燈を頼め」

第68回 枚方・交野地区 『社会を明るくする運動』

今年度の『社会を明るくする運動』を振り返って
更生保護の輪

枚方・交野地区保護司会の皆様におかれましては、罪を犯した人の社会復帰への支援、地域における犯罪や非行の防止、青少年の健全な育成にご尽力いただきありがとうございます。心から敬意と感謝の意を表します。



実施副委員長
黒田 実 交野市長



実施委員長
伏見 隆 枚方市長

本年度の第六八回『社会を明るくする運動』は、七月三日に街頭パレード及び記念式典の実施を予定しておりましたが、大阪北部地震の影響により、やむなく中止となりました。しかし、八月三〇日の『更生保護大会』では、摂南大学吹奏楽部による演奏や桂雀太さんによる落語、よしもとクリエタイプ・エージェンシー所



属のspan!による更生保護啓発ライブなど、盛りだくさんの内容で実施することができました。また、標語パネルの協賛活動では一・二・七枚もの多大なるご協力をいただいたほか、小・中学生を対象とした作文コンテストや街頭での啓発メモ帳の配布を行うなど、広く本運動の目的や意義を周知することができました。こうした活動を通じて、更生保護活動の輪が、より一層広がるものと考えています。今後も、皆様とともに誰もが安心して暮らせることができる社会の実現に力を注いでまいりますので、引き続きご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

更生保護大会

七月に入り、『社会を明るくする運動』の強調月間が法務省主催で全国的に展開され、枚方・交野地区でも七月三日、枚方市民会館で『社会を明るくする運動』を開催予定でしたが、「大阪府北部地震」により枚方市民会館も被害を受け、例年盛大に行われる街頭パレード及び記念式典が中止されました。そんな中、八月三〇日、交野市立ゆうゆうセンターで『更生保護大会』が開催されました。

オープニングセレモニー 新しい若き響き



オープニングは今回初めての参加となる、摂南大学吹奏楽部により、若さいっぱいの演奏に会場も盛り上がり、アンコールの手拍子が会場一杯に沸起り、アンコール曲の演奏に会場が一つになり大きな拍手が会場に響きました。

式典 地域に更生保護の輪

本運動実施委員長伏見隆枚方市長より、枚方・交野地区では、地域の人人々に對して犯罪や非行のない地域社会への呼びかけ、犯罪をした人や、非行をした少年の立ち直りへの協力、地域に根差した更生保護の輪を広げることや、日ごろの更生保護活動に対し感謝が述べられました。



テント贈呈 『社会を明るくする運動』への感謝



『社会を明るくする運動』及び保護司活動への支援に對して、保護司会より枚方市コミュニティ連絡協議会と交野市立倉治小学校にテントが贈呈されました。

講演 第一部 桂雀太落語



酒好きな夫とそれに愛想をつかす妻の会話と『社会を明るくする運動』を掛けて軽妙な話に会場が笑いの渦に包まれました。

第二部 「見る・聞く・楽しく考える 更生保護ってなんだろう」



大阪保護観察所梶原鉄也 観察官と『社会を明るくする運動』大阪府PR大使 span!により「更生保護ってなんだろう」と、コメントを交えたクイズと平井幸雄保護司による保護司の仕事について話がありました。



エンディング コーラス母さん



更生保護女性会などでこのコーラスによる、コーラスを楽しむお母さんの様子をリズムカルで楽しい歌に会場が一つに包まれました。

街頭キャンペーン 更生ペンギンメモ帳



大会終了後、枚方市駅等で更生保護啓発のメモ帳を配り街頭キャンペーンを行いました。

更生保護大会に参加して

摂南大学吹奏楽部 部長 狩谷 淳平

更生保護大会に若者として参加し、更生保護の啓発に貢献することができ、部員一同感謝しております。 この大会がきっかけとなり、明るい社会、住みやすい地域づくりが実現されれば幸いです。

管外研修に参加して

田村 正治

今回の研修は金沢市内にある初等・中等少年院「湖南学院」を訪問させて頂き、広い敷地の中で時代のニーズに合った、少年院というより一定の制約のもと生活指導と自立・規律を教える学生寮という感じである。

ここは原則六ヶ月以内の一般短期処遇であり、教科教育、職業指導・資格取得に力を入れている。とりわけ興味を惹かれたのは、県の伝統工芸である加賀友禅

の製作を通し作品と真摯に向き合う姿勢が、更生と向上に繋ぐヒントを与える教えに大いに納得できるし、絵柄が異なる一枚のハンカチが、心の中に期待を注ぎ込んでくれる。

また、地域NPOとの連携による農業指導は、育てる・食べるという大切さについて感謝とふれあいの感触を覚えてもらう配慮だ。

管外研修は更生保護の現状を学ぶことと、親睦による意思疎通の円滑化と薫陶を得る場でもある。このように有意義な研修への参加が、年々通減しつつある。

活性化について、真剣に知恵を出し合いたいものだ。



旭基礎工業有限公司



代表取締役 岩本 唯

弊社は軟弱地盤を補強する仕事を生業とし平成十四年に設立しました専門土木業者です。国内各地の軟弱地盤の補強、また震災後の復興作業を通じて人との繋がりの大切さを学んでいます。

弊社にも刑を終えた人が正社員として勤めており、第一線で頑張っています。一路順風な事など決して

誰にもありません。一度の過ちや失敗で人生の選択肢がなくなる事のない社会である事を信じ、微力ではありますが地域社会に貢献していく所存です。



有限会社河広工業

代表取締役 梁川 泰弘

弊社は、枚方・交野地域を中心に建設現場に土工・解体工を派遣している会社です。

弊社には、年齢も経験年数も違う様々な従業員が在籍しておりますが、年齢・経験に関係なく、目の前の仕事に対して真面目に、そ

この人に聞く 協力雇用主の方々

デルピス株式会社



代表取締役 宮本 晃司

弊社は四〇余年にわたり廃棄物収集運搬業を営んで参りました。

その間我々の業界でも廃棄物処理から資源リサイクルへと意識変化の波が起これ、弊社も環境に対する高

して一生懸命取り組むことにより、自分自身に自信を持ってもらいたいと考えております。

今後、微力ではございますが、弊社が協力させて頂く事により、更生へのスタート地点として、かつ地域貢献に繋がることができるよう、共に歩んでいくことができると考えています。

い意識をもって取り組み、再資源化をリードする会社の一つとして評価をされるに至りました。

「人と自然の調和」をモットーに、私もデルピスは地球とともに人が生きる環境作りに向かって、チャレンジを続け、次世代に大切な資源と美しい自然、生きるすばらしさを継承することに全力を注ぐことをお約束いたします。

地域活動と保護司の両立



保護司 木崎 龍彦

平成五年(四一歳)殿二小PTA副会長、平成六年同会長を拝命。

それまでは、全くの「仕事人間」でございました。

PTA活動終了と同時に、

コミュニティ役員に推薦され、福祉委員会の所属となりました。平成十二年、枚方市指針により、コミュニティ単位の「自主防災組織」の発足に伴い、副会長として、広くコミュニティの方々と接する機会を得ることとなったわけです。

校区イベントが四季を通じて行われる中、役員の皆様・民生委員児童委員・子供見守り隊等の皆様との日々の「ふれあい」があればこそ、安心安全な町づく

りにつながるものと、信じております。

保護司委嘱(平成二三)後も、限られた時間を有効活用し可能な範囲で、「仕事」との両立を図っております。

昨今、次世代を担う人材不足が危惧される中、小職の活動が少しでも地域の方々への啓発に繋がれば、この上ない幸せと感じております。

むすびに、知恩・感恩・報恩の教えがございますが、生かされている「恩」を感じつつ、前向きに頑張つてまいる所存です。感謝!! 申し上げます。



「社会を明るくする運動」

作文コンテスト

保護司会 会長賞

「言葉によるいじめ」

枚方市立開成小・六年 澤村 勇人



ぼくは、自分の名前を改造した言葉のいじめを、五年の初めごろから六年の一学期の終わりまで受けていました。

初めは、なぜ始めたのかわからなかったけど、同じクラスの数人の人がぼくの名前を改造した、変な名前と呼ぶようになりました。ずっと言われてとてもいやだったので、先生や母に相談して、一時は治まりました。でもまたすぐに、今度は、クラスのほとんどの男子から、同じように言われるようになってしまいました。そして、すれちがったり出会ったりした男子に名前を改造した言葉をかけられ

るようになり、やがて学年全体に広がりました。その後、五年の終わりにまた先生と母に相談して、五年が終わるころに落ち着きました。六年になってクラス替えがあり、一番多くのいじめをした人とは、はなれて別のクラスになりました。新しい担任の先生は初日に、「いやなあだ名がつかないように、自分の呼んでほしいあだ名を言ってください。」と言ってくれてうれしかったです。でぼくは自分の名前を言ってくれるように言ったけれど、クラスの分かれた昨年言っていた人がまた言

い出して、やめるように言っても、「言ってる名前は

架空の人物の名前だから、関係ない。」と言われますが、明らかにぼくに向かつて言ってきます。そして、それがまた学年の男子のほとんどに広がり一学期の終わりで続きました。

ぼくは、このいじめを受けて、どうしてこういういやがらせをしたのかな？ そのいやがらせのどこが楽しいのかな？ という疑問を持ちました。ぼくは、ずっといやがっているのに。そしていじめに反論していく中でぼくの言葉使いもあらくなり、心傷ついているからだよ。言葉は人の心に傷をつける刃物にもなるんだよ。」と言われました。それを聞いてぼくは、人の心は傷つきやすい物なんだなと思

した。そして、ぼくも言葉には気をつけようと思いましたが、ぼくに対する問題はまだまだ。ぼくに対する問題はまだまだ。解決されていません。これからも、この問題の解決には時間がかかると思いますが、ぼくはがまんするので、ぼくは声を上げて解決に向かいたいんです。そしてぼくと同じように、がまんしていたり、苦しんでいたたりしている人にも、がまんをせず、声を上げて、一人で苦しまず親や先生に相談をしてほしいです。そうすることで、みんなが楽しく、そして、明るく過ごすごことで、社会全体を明るくすることに繋がればいいなと思います。



作文コンテスト大阪府への推薦作品

小学校の部

保護司会 会長賞

「言葉によるいじめ」

枚方市立開成小

六年 澤村 勇人

「あたたかい心」

枚方市立開成小

六年 奥野 舞音

「社会をあかるく

するために」

枚方市立東香里小

四年 五味 千優

中学校の部

「小さなことでも

やっつけていけない」

交野市立第一中

三年 岡部 鈴也

「挨拶で目指す

明るい社会」

交野市立第一中

三年 祢宜 愛香

「地域との関わり」

枚方市立招提北中

三年 角 海秀

保護司の栄誉

◎法務大臣表彰

板床 美榮
山口 信博
山本 卓也

◎近畿地方更生保護委員会

委員長表彰

奥本 晃久
芝田 実
津上 孝子

並木美代子
吉田 薫
山口 博

◎近畿地方保護司連盟

会長表彰

木崎 龍彦
富田 芳一
中川 光朗
福地 孝

船戸 和夫
原田 武夫
山本 隆子

内助功労

◎大阪保護観察所所長表彰

永年 山口 信博
永年 山本 卓也
永年 中埜 邦子
上田 哲也
赤穂美智子

萩野 益男
加藤 修

野村 定夫

端野 敦夫

原 千明

廣田 恭孝

六車 健

◎大阪府保護司会連合会

会長表彰

池田 幸子

恵阪 順三

伊地知武志

伊藤 寛

加藤 勤

島田 尚弥

豊田 文夫

渡辺 道男

山根 裕治

◎大阪保護観察所所長表彰
協力雇用主
株式会社 石橋塗装店

保護司の動静

◎新任保護司

◇平成三〇年一月二五日付

水嶋 忠雄(牧野阪)

西田 政充(藤阪西町)

左近 洋二(山之上北町)

◇平成三〇年五月二五日付

荒賀 正子(宮之阪)

足立 理明(三栗)

◇平成三〇年九月二五日付

谷本真紀子(杉山手)

林 宏毅(大垣内町)

山根 孝子(堂山)

◎退任保護司

◇平成三〇年一月二四日付

※下村 宏(田宮本町)

小邨 淑恵(長尾谷町)

◇平成三〇年五月二四日付

※川上 綾美(長尾元町)

◇平成三〇年九月二四日付

※京谷 謙(磯島)

※印 名誉会員に就任

悼

※花村 桓 二九二二二〇

森 章二 三〇三十九

三好 英夫 三〇三十二

謹んでご冥福をお祈りします

※印 名誉会員

保護司やつん

左近 洋二

我が国では、近年、少年犯罪や少年非行が減って来ていますが、一方では自分は大メな人間だと思つて子どもたちの割合が、米国、中国、韓国に比べ高い傾向にあります。

しかも、社会・地域に対して否定的な意識を持つ子どもほど「自分自身に満足している」と回答した割合が低いと言われています。

『参考資料：日本の子どもたちの自己肯定感が低い現状について』

私は、教職経験を生かし、刑に服した人が自分では分からない自分自身の良さに気づいたり、地域に居場所を感じたりできるように多くの方々と協力しながら、少しでもお役に立てればと思つています。

はじめてまっしー!

荒賀 正子

林 宏毅



足立 理明

山根 孝子



谷本真紀子



編集後記

本年五月から新しい元号が始まります。

更生の道を歩んでいる人達に希望のある明るい風が吹いてくることを願っています。

保護観察は面接に始まり面接に終わると言われています。

「あなたのことをこれだけ大切に思っていますよ。」この愛おしむ気持ちが変わる面接を心掛けたいと改めて思います。

